

# 「政令指定都市誕生後の県内各地域の将来像」に係る熊本地震の影響の検証

～「県内各地域の将来像」の実現に向けて～

平成30年6月

熊 本 県

# 目次

1	検証の基本的な考え方	1
2	環境変化とその影響	2 ~ 3
3	各地域から挙げられている新たな取組み	4 ~ 7
	( 1 ) 熊本市を中心とした熊本都市圏地域	4
	( 2 ) 県北地域	4
	( 3 ) 阿蘇地域	5
	( 4 ) 県央東部地域	6
	( 5 ) 県南地域	6
	( 6 ) 天草・宇土半島地域	7
4	各地域の将来像	8 ~ 26
	全地域共通の新たな「主な取組みの方向性」	8
	( 1 ) 熊本市を中心とした熊本都市圏地域	11
	( 2 ) 県北地域	14
	( 3 ) 阿蘇地域	16
	( 4 ) 県央東部地域	19
	( 5 ) 県南地域	21
	( 6 ) 天草・宇土半島地域	25

【参考】 県内各地域の「主な取組みの方向性」

## 1 検証の基本的な考え方

平成23年12月、熊本市の政令指定都市移行を踏まえ、県内各地域におけるアイデンティティや強みを生かした取組みの方向性等を示すため、「政令指定都市誕生後の県内各地域の将来像」、いわゆる「地域ビジョン」を策定しました。

地域ビジョンの策定後、その方向性に沿った取組みが県内各地域で具体的に進展しています。世界文化遺産である万田坑、三角西港や、登録される見通しとなった崎津集落を活用した広域観光を推進しました。また、緑川流域の石橋群や九州山地の自然環境を生かした広域観光、県南フードバレー地域プラットフォームによる売れる商品づくり、水俣・芦北地域雇用創造協議会による高付加価値な産業創出等、様々な地域において、県民総幸福量の最大化に向けて、特色のある新たな取組みが生まれ、具体化しました。

一方、本県の人口は、平成10年を境に減少傾向にあり、平成26年には179.4万人となっています。平成26年の合計特殊出生率は全国平均と比べ高い水準にあるものの、出生数自体は減少傾向にあり、死亡数が出生数を上回る自然減の状態となっています。社会増減は、総じて転出が転入を上回る社会減の状態にあり、このまま何も対策を講じなければ、本県の2060年の人口は約117.6万人になると推計しています。

本県では、県民の結婚・出産・子育てに関する希望の実現や熊本への人の流れの創出、人材流出の抑制等を図ることで、本県の2060年の人口を144.4万人とする将来展望を示し、新たな取組みにも果敢にチャレンジを開始したところでした。

その矢先、平成28年4月14日と16日の二度にわたり、かつて経験したことのない震度7の地震が熊本を襲い、関連死を含め死者264名（平成30年5月11日現在、熊本県危機管理防災課調べ）、全壊、半壊及び一部破損を合わせて約20万棟の住家被害が発生する等、甚大な被害をもたらしました。

本県は、1日も早い生活再建と創造的復興を掲げ、「熊本復旧・復興4カ年戦略」を策定し、その実現に向けた取組みを着実に進めています。この4カ年戦略には、熊本地震からの復旧・復興の取組みのほか、地域ビジョンを基に全国に先駆けて進めてきた地方創生の取組みも盛り込み、その加速化を図っているところです。

しかしながら、熊本地震は、特に被害の大きかった熊本都市圏東部地域や阿蘇地域を中心に県内各地域に様々な環境変化をもたらし、その将来像への影響を懸念する声があります。

このため、人口減少や少子高齢化が進み、家族や地域の絆の大切さが強く意識される中、熊本地震がもたらした環境変化とその影響、震災を受けて重要と考える新たな取組み、震災以外の社会情勢の変化を踏まえた新たな取組みについて、各地域の意見を伺い、検証を行いました。

## 2 環境変化とその影響

検証の基本的な考え方を踏まえた「環境変化とその影響」として、各地域から挙げられている主なものは次の6つです。

### 1 人口流出（社会減）への影響

- ・ これまでも本県の人口動態は、自然減及び社会減の人口減少状態であったが、熊本地震により、被災者の県外への避難や被災企業の営業休止等により、例年とは異なった人口流出が発生
- ・ 平成28年は比較的被害の大きかった市町村で人口流出（社会減）が拡大。平成29年でも平成27年水準まで社会減が回復していない市町村も存在

### 2 深刻な人手不足への影響

- ・ 人口減少状態にあった本県は、これまでも、将来の深刻な担い手不足や技術・技能の継承への影響が懸念
- ・ そのような中、熊本地震からの復旧・復興事業の需要過多により人手不足が顕著化し、円滑な事業実施及び迅速な事業完了に支障が発生

### 3 観光への影響

- ・ 阿蘇地域等直接の被害が甚大であった地域では、日帰り・宿泊客ともに減少
- ・ 直接的な被害が少なかった地域では、九州ふっこう割により宿泊客が増加したものの、風評被害等により日帰り客は減少

### 4 産業への影響

- ・ 熊本都市圏地域や阿蘇地域を中心に、農地、農業用施設等に甚大な被害が発生
- ・ 林道施設や木材加工施設、漁港や共同利用施設等にも被害が発生
- ・ 個人消費や企業生産が一時大きく減少。直接的な被害が発生しなかった地域でも、風評被害やサプライチェーンの寸断等によって経済活動に支障が発生

### 5 交通アクセスへの影響

- ・ 阿蘇方面への、国道57号、国道325号、県道熊本高森線、JR豊肥本線、南阿蘇鉄道等のアクセスルートが被災。交通の流れが寸断、変化
- ・ 代替ルートの設定や代替バスの運行がなされているが、地域住民の生活や観光客の入込みに影響

## 6 住民意識への影響等

- ・ 復興に向け、地域（まち）づくり団体が活性化した地域がある
- ・ マスメディアで取り上げられる機会が増え、自治体の認知度が上昇

### 3 各地域から挙げられている新たな取組み

各地域から挙げられている「震災を受けて重要と考える新たな取組み」「震災以外の社会情勢の変化を踏まえた新たな取組み」は主に次のとおりです。

#### (1) 熊本市を中心とした熊本都市圏地域

《震災を受けて重要と考える新たな取組み》

- ・ 熊本城の復旧推進
- ・ 市民の生命と将来を担う子どもたちの命を守るため、熊本地震により被災した市民病院の一日も早い再生
- ・ 復興のシンボルとなる庁舎建設
- ・ 防災本部機能を高める庁舎体制の強化
- ・ 復興に向け、防災拠点施設の整備や避難路の確保等の災害に強いまちづくりの推進
- ・ 地域防災計画の見直し、防災行政無線等の施設整備、防災教育といった将来起こりうる災害に対応できる仕組みづくり
- ・ 町の防災力の強化
- ・ ボランティアセンター等を担う町社会福祉協議会の機能強化
- ・ 被災者の住まいの確保支援や心のケア等、生活再建に向けた総合的な自立支援
- ・ 熊本地震に関わる記録を集積・発信するとともに、様々な取組みを通じて「熊本地震の記憶」を熊本の未来を担う子どもたちへ伝承
- ・ 震災記念公園や震災遺構といった各拠点を結びつけ、地域全体を震災の記憶の継承の場として捉える「メモリアル回廊」の整備
- ・ 「大空港構想 Next Stage (熊本都市圏東部地域グランドデザイン)」と連携した取組み

《震災以外の社会情勢の変化を踏まえた新たな取組み》

- ・ 東京オリンピック・パラリンピックやラグビーワールドカップ、女子ハンドボール世界選手権の開催、熊本城ホールの開業をきっかけに、九州・熊本の情報発信を行い、熊本の魅力を伝え、誘客数の増加等を図る
- ・ 阿蘇くまもと空港駅を町の玄関口とした拠点や賑わいへの取組み
- ・ 立地企業等の利便性の向上や周辺地域への経済効果を波及させるための空港へのアクセス道路の充実

#### (2) 県北地域

《震災を受けて重要と考える新たな取組み》

- ・ 市民病院の建替、学校施設等の改修

- ・ 地域防災計画の見直し、各種対応マニュアルの作成、地震記録誌の作成
- ・ 自主防災組織の拡充及び防災士 500 人体制の確立、スマートフォン等を活用した災害情報配信システムの整備
- ・ 立地条件等を考慮し、民間活力を生かした定住環境整備
- ・ 木造住宅の耐震化促進
- ・ 防災力強化に資する道路ネットワークの確立
- ・ 有明海沿岸道路の整備促進

#### 《震災以外の社会情勢の変化を踏まえた新たな取組み》

- ・ 都市部等の住民をターゲットとした移住促進、婚活支援、空き家バンク、三世帯同居支援、地域優良賃貸住宅、子育て世代総合支援センター、学童保育・延長保育の充実等
- ・ 土地区画整理事業を通じた県境地域のにぎわい創出
- ・ 豊前街道沿いの空き家等を活用した賑わい創出
- ・ 官民連携による地域エネルギーの有効活用及び地産地消
- ・ DMO構築及びインバウンド対策
- ・ 地域の特性や地域資源を十分に生かした観光振興
- ・ 日本遺産「菊池川流域の米作り」を生かした取組み
- ・ 「金栗四三氏」をフックとした取組み
- ・ 有明海の漁場改善、海苔養殖業の企業参入による分業化、新規漁業者増・後継者育成
- ・ ICTを活用した農業振興
- ・ 民間企業との連携による健康増進・産業活性化

### ( 3 ) 阿蘇地域

#### 《震災を受けて重要と考える新たな取組み》

- ・ 被災した集落の再生
- ・ 被災した山村開発センター、商工会施設の建替
- ・ 防災マニュアル等の充実
- ・ 災害に強い村づくりのための地域住民の意見聴取
- ・ 観光客も含めた安全・安心な体制づくり
- ・ 国道 5 7 号、阿蘇大橋、JR 豊肥本線、南阿蘇鉄道の早期復旧
- ・ 南阿蘇鉄道の観光拠点化
- ・ 直轄砂防事業促進、災害公営住宅の建設、復興住宅等整備による定住化施策
- ・ 農業の復旧・振興、商工・観光の回復・拡大
- ・ 県境を越えた広域防災協定の促進

《震災以外の社会情勢の変化を踏まえた新たな取組み》

- ・ 阿蘇の広大なフィールドを生かした新アクティビティの開発
- ・ ブランド化による観光プロモーション、農業と観光の推進
- ・ 仕事の創出を通じた定住人口の増加及び地域経済の活性化を図るため、地産地消レストランの運営等を行うまちづくり会社の立ち上げ
- ・ 移住サロン開設に伴う受け入れ態勢の強化

#### (4) 県央東部地域

《震災を受けて重要と考える新たな取組み》

- ・ 防災拠点としての機能を十分発揮できるよう、役場庁舎の機能強化
- ・ 指定避難所の非構造部材等の耐震化や通信機能の整備
- ・ 備蓄倉庫等の防災機能を備えた総合体育館の建設
- ・ 地域防災訓練の実施及び自主防災組織を中心とした地域防災体制の強化、地域住民の防災意識の向上
- ・ 復旧にとどまらず復興もあわせたまちづくりとして、災害公営住宅・防災公園・子育て支援住宅の複合開発

《震災以外の社会情勢の変化を踏まえた新たな取組み》

- ・ 移住者向けの窓口設置、支援体制の構築、移住定住に向けた若者向け住宅用地の整備

#### (5) 県南地域

《震災を受けて重要と考える新たな取組み》

- ・ 防災拠点として有効に機能する災害対策を確保した新庁舎建設
- ・ 避難所等の耐震改修、機能充実
- ・ 自主防災組織の活動支援や防災リーダーの養成
- ・ 大規模災害を想定した防災訓練の強化
- ・ 大都市圏等で開催される「復興支援」フェア、物産展等の震災関連需要への対応
- ・ 正確な地域情報の発信

《震災以外の社会情勢の変化を踏まえた新たな取組み》

- ・ 食品関連産業を中心とした企業、研究施設等の誘致や地場企業の振興
- ・ 新たな特産品開発、6次産業化、販路拡大
- ・ 八代港の人流、物流拠点化へ向けたポートセールスの強化
- ・ クルーズ船寄港による地域経済効果を促進するための観光ルート整備、多言語版観光パンフレットの作成、観光施設等の受入環境の充実



- ・ IT企業のサテライトオフィス等の誘致

## (6) 天草・宇土半島地域

### 《震災を受けて重要と考える新たな取組み》

- ・ 復興のシンボルとなる庁舎建設
- ・ 防災拠点として有効に機能する災害対策を確保した新庁舎建設や避難所等へ対応した複合施設の建設
- ・ 防災センターの設置検討
- ・ 指定避難所の見直し
- ・ 防災行政無線戸別受信機設置及びコミュニティFMの開局
- ・ 大規模災害を想定した防災訓練の強化

### 《震災以外の社会情勢の変化を踏まえた新たな取組み》

- ・ 八代港への大型クルーズ船の寄港増に伴い、クルーズ船客の宇城～宇土・天草地域への誘客を図るインバウンド対策強化
- ・ 長期滞在型観光エリアを形成し、観光宿泊客数を増加
- ・ 世界文化遺産である三角西港を核とした広域的な観光施策の推進
- ・ 世界文化遺産に登録される見通しとなった崎津集落の地域資源と定期航路 天草長崎航路を活用した観光施策の促進
- ・ 地域商社 天草宝島物産公社による加工品等の流通の効率化・販路拡大
- ・ 天草市起業創業・中小企業支援センター(アマビズ) 天草市産業振興チャレンジ基金による創業・事業拡大等支援

## 4 各地域の将来像

熊本地震により、ふるさと熊本の地は、甚大な被害を受けました。被災者の生活再建と被災地の創造的復興なしには、熊本の発展はあり得ません。これまでの取組みを更に強く、大きくし、県内各地域がそれぞれの特性を生かし、被災された方々や被災した地域を支えながら、県内各地域と県全体の発展を目指していく必要があります。

各地域から挙げられている新たな取組みとこれらに関する市町村との意見交換を踏まえた新たな「主な取組みの方向性」のうち全地域共通のものは、次のとおりです。

新

### 全地域共通の新たな「主な取組みの方向性」

#### 防災拠点の強靱化

各地域において多くの住民が利用し、災害時には防災拠点となる自治体庁舎、医療施設、社会福祉施設、学校施設等の耐震化及び機能充実等

#### 防災体制の強化

熊本地震における教訓を踏まえ、地域防災計画、各種対応マニュアルの見直し・整備、実践的な総合防災訓練の実施。「自助」による災害対応力向上のため、食料の備蓄などに関する住民の防災意識の向上。「共助」による地域防災力向上のため、自主防災組織を中心とした地域防災体制の強化

#### 風評被害の払拭

震災で損なわれた販路や市場回復のため、大都市圏等における復興応援フェア等をはじめとした県産品の継続的な販路確保・開拓。観光面での風評被害の払拭のため、メディア等を活用した正確な情報発信

#### 被災企業、被災農家の復旧・復興

被災企業の事業再建や更なる事業発展の支援。被災した農地や農業用施設の復旧とともに、将来の生産性向上につながる大区画化や農地集積の実施

#### 復興まちづくり

地震の影響による人口流出が懸念される中、復旧・復興に向けた住民意向の把握を行い、買い物弱者の支援、交通ネットワークの整備、三世帯同居の支援といった過疎集落等が抱える地域の様々な課題解決に向けた取組みを実施

#### 地震を踏まえた住宅整備

安心して住み続けられる「すまい」が確保できるよう、宅地復旧等を含む「すまい」の再建支援、災害公営住宅建設、住宅耐震診断・耐震化促進等を行い、人口流出を抑制

#### 道路のリダンダンシーの確保

被災時の緊急・救援活動や物資の輸送、復旧活動等に必要な円滑な通行を確保できるよう防災力強化に資する道路ネットワークを確立

各地域においては、それぞれ有する資源や特性等が大きく異なっており、その将来像について主体的に議論を行い、住民と協働しながら、個性的で魅力ある地域づくりを進めていくことが大切です。

次頁以降では「各地域の将来像」について、各地域から挙げられている新たな取組みとこれらに関する市町村との意見交換を踏まえ、地域ごとの将来像を描きながら、各地域の活性化に向けた主な取組みの方向性を示しています。

今後も引き続き、地域ビジョンで掲げた、地域の将来像や主な取組みの方向性に沿って、各地域において地域の優れた資源を生かしながら、持続的に安心して暮らせる社会づくりや地域振興につながるよう、県と市町村、複数の市町村、また県境を越えて九州各県と連携して取り組んでいくことが必要です。

また、本県は、「熊本復旧・復興4カ年戦略」に、熊本地震からの復旧・復興の取組みのほか、地域ビジョンを基に全国に先駆けて進めてきた地方創生の取組みも盛り込み、その加速化を図ってきました。

今回検証した各地域の「将来像」や「主な取組みの方向性」を、県と市町村等が改めて共有し、4カ年戦略に掲げた創造的復興の取組みと各地域・市町村における熊本の将来を見据えた取組みを確実に実現するとともに、県民総幸福量の最大化につなげていきます。

## (1) 熊本市を中心とした熊本都市圏地域

### 位置付け（性格）

- ・ 政令指定都市である熊本市を中心に生活圏、経済圏としての結びつきが強い地域
- ・ 九州新幹線や政令指定都市の効果の最大化をめざし拠点性の向上やハブ機能の強化を図っていく地域
- ・ 九州における拠点性の向上を図るとともに、熊本駅や阿蘇くまもと空港、熊本港などの広域・高速交通拠点を生かし、県外、更には海外の活力を積極的に取り込み、県内各地に波及させていく地域

### 将来像

熊本市は、九州を代表する都市として、強力な都市ブランドを世界に発信しています。桜町地区の再開発や熊本駅ビル等の整備が進み、中心市街地の魅力向上と更なるにぎわいが創出されています。

その熊本市を含む熊本都市圏地域は、商工業が更に集積するなど、県内で最も活力に溢れた地域となっており、その活力を生かし、産業、経済、教育、国際化など、多くの面で県全体を強力にけん引しています。

さらには、熊本駅や阿蘇くまもと空港、熊本港など広域・高速交通拠点の機能充実や九州中央自動車道や中九州横断道路の幹線道路ネットワークの整備を図ることで、九州における拠点性が向上し、アジアをはじめとした国内外との交流が拡大しています。

復旧が進む熊本城や細川コレクションをはじめとした加藤・細川 400 年の歴史・文化などの魅力はもちろん、阿蘇や天草、人吉などが持つ魅力も生かした M I C E の誘致を進めるとともに、熊本市を訪れた参加者が、アフターコンベンション等で県内各地を訪問しています。

多彩で貴重な農水産物の生産地であるとともに、地域の貴重な財産である地下水が守られ、熊本の誇るべき宝として活用されています。

### 主な取組みの方向性

#### これまでの産業集積等を生かした関連企業誘致の促進

政令指定都市としてのブランド力を生かし、工業団地の分譲促進、既存の産業集積を生かした進出企業関連産業の誘致に加え、IT、コンテンツ産業、BPO等地方拠点の整備に積極的な業種の誘致を強化するとともに、地場産業を支える人材の確保、育成を進めます。

また、大学の特長ある強みを我が県の強みとして積極的に生かし、産学行政連携による創業支援や、新技術開発などの研究開発投資も含めた企業誘致を促進します。

さらには、産業の集積に伴い必要となる道路網整備も含め、ハード・ソフト両面からの交通渋滞緩和対策等を推進します。

### 生活環境の整備等による移住・定住の促進

商工業等の産業が集積している熊本市及び熊本市と生活圏、経済圏を一体的に形成する地域にあつて、計画的な宅地開発や子育て支援策の充実、若者の地元就職の推進等により、引き続き移住・定住の促進を図ります。

### 熊本市及びその周辺地域におけるハブ機能の強化

増加する交流人口などを県内全域に波及させるため、熊本市と県内各地域とを結ぶ道路の整備、公共交通機関などの交通ネットワークの強化により連携を促進します。

#### (道路)

国道57号の早期復旧とともに、中九州横断道路や熊本天草幹線道路などの整備による熊本市からの東西軸の人の流れを創出します。

#### (熊本駅)

新幹線駅としての特徴を最大限に生かして利便性の向上を図るとともに、県内各地へ向けた観光バス、「A列車で行こう」といった観光列車などの2次アクセスとの結節機能の強化により観光客等の利便性の向上を図ります。

広域交通の結節点という性格を生かし、県内はもとより九州全域の観光や歴史・文化等の情報発信機能の充実を図り、各地域における交流人口の拡大につなげます。

#### (阿蘇くまもと空港)

経済成長が著しい東アジアや、関東・関西といった大都市圏からヒト・モノ・カネを呼び込むため、国際線の拡充など空港の更なる機能等の強化を図る取組みを推進します。

訪れた人が「また使いたい」と感じる空港、更に県民も「また来たい」と愛着・親しみを感じる空港をめざし、空港利用者の利便性の向上を図るとともに、空港とその周辺の美しさ・景観を磨き上げ、熊本のイメージを向上、発信していく取組みを推進します。

また、九州の中央に位置し、阿蘇に接する利点を生かし、九州・県内観光における起点・終点として交通アクセス網を含めた機能を強化していきます。

#### (熊本港)

耐震強化岸壁など港湾機能の整備・充実により、熊本都市圏地域に立地する先端技術関連企業等の物流の利便性の向上等を図ります。

### 官民協働による地下水保全対策の強化

地域100万人の暮らしと産業を支える地下水について、涵養量の確保・増加、採取量の削減及び硝酸性窒素対策等に、県民、事業者、市町村及び県が協力・連携して取り組むとともに、震災により再認識した熊本の水の大切さや魅力を県内外に発

信します。

#### 県と熊本市との連携強化

熊本の拠点性の向上、ハブ機能の強化等につながる取組みの推進に向け、熊本市と県との連携強化を図ります。

国際会議や大型コンサート・スポーツ大会等のMICE誘致を推進し、コンベンションシティの実現をはじめ、熊本市の都市機能の充実や魅力の向上に県市連携して取組み、熊本連携中枢都市圏をはじめ県内全域への経済効果の拡大を図ります。

新

#### 熊本地震の記録・記憶の継承

地域の被災文化財の復旧過程を観光素材として活用するなど、震災遺構等を保存・活用した回廊型震災ミュージアムの実現により、熊本地震の記録・記憶の継承を図るとともに、教育旅行の回復や更なる交流人口の拡大につなげます。

#### 熊本都市圏東部地域のまちづくり

阿蘇くまもと空港運営の民間委託、県道熊本高森線4車線化の取組み、土地区画整理事業等の「大空港構想 Next Stage（熊本都市圏東部地域グランドデザイン）」に基づく阿蘇くまもと空港周辺地域のポテンシャルを最大限に生かした創造的復興の実現により、熊本県経済を力強くけん引する誰もが安心して便利に暮らせる地域の実現に向け、取組みを進めます。

#### 国際スポーツ大会の開催を契機とした交流人口の拡大

ラグビーワールドカップ2019や2019女子ハンドボール世界選手権大会をはじめとする熊本における世界的なスポーツイベントを契機として、観光資源の更なる魅力を創造し、多様化するニーズへの対応等の観光客受入態勢の構築を図ります。

## (2) 県北地域

### 位置付け（性格）

- ・ 福岡県、大分県と隣接する県の北部にあって、温泉や多彩な歴史・文化遺産などの豊富な地域資源を有するとともに、良質の米をはじめ、畜産や野菜、果樹などを中心に生産性の高い農業が展開されている菊池川流域に広がる地域
- ・ 新幹線効果の最大化に向け、新玉名駅を起点とした交流人口の拡大を図る地域
- ・ 福岡をターゲットとした交流人口や定住人口の拡大を図る地域
- ・ 県境を越え、福岡県、大分県及び長崎県との連携を推進する地域

### 将来像

温泉や多彩な歴史・文化遺産などの豊富な地域資源を活用した菊池川流域連携や県境を越えた連携により、魅力的な広域観光が展開され、交流人口が拡大しています。

福岡都市圏等に通勤する人たちが数多く移住してきています。

製造業が集積する北部九州に近いことを生かし、自動車、半導体、再生可能エネルギー関連企業が更に集積してきています。

畜産や野菜、果樹などを中心に生産性の高い農業が展開され、県内外で消費されています。

### 主な取組みの方向性

#### 県北の玄関口としての玉名地域の機能強化

新玉名駅から山鹿、菊池、阿蘇方面への2次アクセスの向上を図るとともに、九州自動車道のIC、長洲港などの交通拠点を生かした取組みを強化するなど、県北の玄関口としての玉名地域の機能強化を図ります。

新幹線通勤などの交通の利便性を生かしながら、宅地開発、子育て支援策の充実などにより、福岡都市圏等を通勤圏とした移住・定住を促進します。併せて、県北地域全体の産業振興等のため、福岡からの交通インフラの充実を図り、自動車、半導体、再生可能エネルギー関連企業の誘致を進めます。

#### 福岡などからの誘客をめざした広域的観光の振興

新玉名駅を玄関口として、菊池川の流域地域が連携し、広域的な観光の振興を図ります。各地域の温泉、豊富な農畜産物を生かした観光農園や物産館、全国有数の装飾古墳、古代山城の鞠智城、菊池一族の史跡、八千代座といった歴史文化遺産、菊池渓谷とそれに続く阿蘇の草原といった自然環境などの資源を生かし、これらをつなぐテーマ性のある観光ルートの設定など、広域的な観光を進めます。

世界文化遺産である万田坑をはじめとした炭鉱関連の近代化産業遺産群とメガソーラーなどの新旧エネルギー産業の観光素材を生かした教育旅行の誘致を促進



します。

また、これまで培ってきた韓国との交流を生かしながら、定期便が就航した台湾・香港との交流も拡大するとともに、2019 女子ハンドボール世界選手権大会を契機として、更なる誘客を図っていきます。

これらの取組みにより、隣接する福岡をはじめ、その先にある中国地方、関西・関東方面や東アジアを見据えた交流拡大に向けた取組みを推進します。

#### 更なる農林水産業所得の向上

県下有数のいちご、トマト、スイカ、酪農、肉用牛などの農畜産物、豊富に存在する竹林やアヤスギ、椎茸などの森林資源、有明海が育む海苔や貝類などの地域資源については、消費者ニーズを踏まえた商品づくりなどを進め所得の向上を図ります。また、多様な担い手の育成を図るための基盤整備や農業集積を推進します。

観光業と連携し、特産農畜産物や加工品の商品化を図り、地域内の物産館を活用した付加価値の高い6次産業化を推進します。

県農業研究センターと連携した新品種の導入や生産基盤の維持向上等による高品質化、安全な農産物の安定生産体制を高めるとともに、輸出も視野に入れた販路の拡大や多彩な農林水産物のブランド化を推進します。

新

#### 新たなヒトの流れの創出

中九州横断道路、有明海沿岸道路等の幹線道路ネットワークの整備促進など、北部九州と阿蘇・大分地域を結ぶ結節点としての機能を強化し、観光誘客や企業集積等による新たなヒトの流れを創出します。

#### 地域資源の磨き上げによる広域的観光の更なる振興

「菊池川流域の米作り」の日本遺産認定を契機として、流域の自治体等が連携した取組みや、日本マラソンの父「金栗四三氏」をフックとした取組み、ラムサール条約に登録された荒尾干潟といった自然を生かした観光ルートの設定等の広域的な観光を推進します。

### (3) 阿蘇地域

#### 位置付け(性格)

- ・ 雄大な自然景観をはじめ、豊富な地域資源を生かし、九州を代表する観光地として交流人口の増大を図る地域
- ・ 他地域にとって交流拡大に向けウィン・ウインの関係を築きたい地域であり、魅力を発し続けることが求められる地域
- ・ 県境を越え、大分県や宮崎県との連携を推進する地域

#### 将来像

阿蘇の草原が維持・再生され、豊かな自然や魅力ある景観が守られており、主な産業である農林業への再生可能エネルギーの導入や農林畜産物のブランド化が進み、持続可能な農山村が形成されています。

国道57号、国道325号、県道熊本高森線、JR豊肥本線、南阿蘇鉄道といったアクセスルートの回復及び被災した阿蘇神社の復旧や草原の再生が進み、阿蘇の素晴らしい自然や豊富な温泉などの魅力が世界に向けて発信され、交流人口がますます増大しています。

#### 主な取組みの方向性

##### 阿蘇の草原の維持・再生等

阿蘇草原再生千年委員会や阿蘇草原再生協議会、阿蘇グリーンストック、阿蘇地域振興デザインセンターなどと連携しながら、野焼きの安定的な実施など阿蘇の草原の維持・再生に向けた取組みを強化していきます。

阿蘇の草原に関する知恵や技術を次の世代につないでいくために、阿蘇の水源かん養機能を積極的にアピールし、自然環境や草原についての体験学習等ができる環境整備を促進します。

「阿蘇の草原の継続と持続的農業」が世界農業遺産に認定されており、野草堆肥の利用拡大による農産物の付加価値向上など農業を中心とした地域の活性化を図ります。また、あか牛ブランドの確立や、放牧環境の整備など、畜産農家の高齢化や減少が進む中、阿蘇の草原をあか牛の放牧等で利用する農畜産業の振興を図ります。

##### 九州観光の拠点化(ハブ化)の推進

草原をはじめとした雄大な自然景観、数多くある温泉や湧水、豊富な文化・歴史資産など、地域資源を生かした滞在交流型観光の振興を図ります。

また、九州の代表的な観光地である阿蘇と各県の観光資源を結ぶ広域観光ルートの充実や、隣接する阿蘇くまもと空港の機能強化を図ることなどにより、九州における観光の拠点化(ハブ化)を促進します。

新幹線駅や阿蘇くまもと空港からの2次アクセスの向上を図るとともに、JR等

のローカル線の駅を起点とした定期周遊バス等の充実により、地域内におけるアクセスの向上も図っていきます。

阿蘇の貴重な自然や歴史文化について地域住民や県民の理解を深め、世界文化遺産登録に向けた取り組みにより、阿蘇の世界ブランドを確立します。

#### エネルギーの地産地消（スマートビレッジ）のモデルづくり

豊かな森林資源を活用した木質バイオマスによる農業用ハウスへの熱供給、ソーラー、各種バイオマス、小水力等による農業施設等への電力供給、地熱を利用した木材乾燥など、再生可能エネルギーの活用によるエネルギーコストの安定化を図るとともに、環境に負荷をかけない農林業を推進します。

また、併せてスマートグリッド等の導入により、エネルギーの地産地消を実践するスマートビレッジのモデルをめざします。

#### 地域特性を生かした農林業の振興

トマトやアスパラガスなど高冷地の冷涼な気候条件を生かした夏秋野菜産地づくりを更に進めていくとともに、リンドウ、トルコギキョウなど地域特性を生かした特産品の安定生産を図ります。また、小国杉、阿蘇南郷檜の更なるブランド化を推進します。

さらに、観光との連携はもとより、「阿蘇」というブランド力を生かし、農産物直売所、農家レストラン、農家民宿、グリーンツーリズム等を活用した6次産業化を推進し、地域農業の振興を図ります。

新

#### 熊本地震の記録・記憶の継承【再掲】

地域の被災文化財の復旧過程を観光素材として活用するなど、震災遺構等を保存・活用した回廊型震災ミュージアムの実現により、熊本地震の記録・記憶の継承を図るとともに、教育旅行の回復や更なる交流人口の拡大につなげます。

#### 阿蘇へのアクセスルートの回復

地震により大きな被害を受け、住民生活や観光客の入込みに大きな影響を与えている道路（国道57号、国道325号、県道熊本高森線）鉄道（JR豊肥本線、南阿蘇鉄道）の早期復旧に向けた取り組みを進めます。

#### インバウンド等交流人口の回復・拡大

「国立公園満喫プロジェクト」による阿蘇の広大なフィールドを生かしたサイクルツーリズムなどの新アクティビティの提供や、世界ジオパークである阿蘇火山ジオツーリズム、農業と観光の連携強化、南阿蘇鉄道の観光拠点化などに取り組み、着地型・滞在型観光を推進し、地域の再生・活性化を図ります。

#### 移住・定住の促進等

阿蘇の雄大な自然環境、豊富な水資源、温泉、食、歴史・文化に育まれた農山村の魅力のPR強化、働く場や住居のマッチング等により、都市部出身者やUターン者の移住・定住を促進するとともに、熊本地震により被災した集落の再生等に取り組み、人口流出の抑制を図ります。

## (4) 県央東部地域

### 位置付け(性格)

- ・ 熊本市隣接地域の東部に位置し、緑川流域沿いに熊本市と生活圏などにおいて緩やかな関係性を有する地域と、宮崎県へつながる中山間地域で構成される地域
- ・ 石橋や歴史・文化などを生かした広域的な観光が行われている地域
- ・ 新幹線効果の波及に向け、県境を越え、宮崎県との連携の推進を図る地域

### 将来像

熊本市に近接する平坦地域においては、その地理的優位性を生かした商工業の集積が図られ、多くの人の移住・定住が進んでいます。

また、中山間地域においては、九州中央自動車道の整備に併せて、宮崎県境地域との連携が深まり、魅力ある歴史的遺産、伝統文化、自然環境等を生かした観光振興や農山村体験等により交流人口が増加するとともに、都市部出身者等の移住も進んでいます。

農畜産業や林業において高付加価値化等が進み、所得の向上が図られています。

### 主な取組みの方向性

#### 平坦地域を中心とした移住・定住、企業誘致の推進

熊本市及びその隣接地域への通勤圏として、住宅地の整備や定住支援制度の充実等により、引き続き移住・定住の促進を図ります。

また、九州自動車道のICやスマートIC、整備が進む九州中央自動車道などの高速交通網や阿蘇くまもと空港への利便性の高さといったポテンシャルを生かし、半導体、自動車産業等重点5分野を中心に工場適地の把握等企業誘致の取組みを推進します。

#### 中山間・県境地域における交流人口拡大

九州中央自動車道の整備をにらみながら、緑川流域に残る日本有数の石橋群や宮崎県に続く日向往還といった歴史的資産、文楽・神楽等の伝統芸能、フットパス、九州山地の自然環境等を生かした広域観光ルートの設定などにより、観光振興に力を入れ、交流人口の拡大を図ります。

#### 農林業の高付加価値化等

高冷地野菜や茶などの特産品のブランド化を推進することはもとより、加工・販売まで視野に入れた企業の農業参入や、有機農業等の普及、地域の農林産物を活用した特産品の開発・製造・販売をめざす6次産業化の推進など、農林業の高付加価値化に向けた取組みを強化するとともに、林業と建設業の連携による新たな雇用創出を図ります。

新

中山間・県境地域における移住・定住の拡大

九州中央自動車道延伸等を見据え、恵まれた自然環境等の魅力発信を強化し、仕事や住宅支援策、子育てしやすい環境づくりに向けた取組みの充実により、都市部出身者等の移住・定住を促進します。

## (5) 県南地域

### 位置付け(性格)

- ・ 県の南部にあって、八代、水俣・芦北、人吉・球磨のそれぞれの地域において生活圏的なつながりを有している一方、八代地域を中心に宮崎県や鹿児島県までつながる南九州の高速交通網等を介して人や物の交流が盛んに行われるなど、相互に関係の深い地域
- ・ 新八代駅や新水俣駅を起点とした交流人口の拡大や、県内最大の国際貿易港であるとともにクルーズ拠点整備が進む八代港を通して人流・物流の拡大等が見込める地域
- ・ 県境を越え、宮崎県や鹿児島県との連携を推進する地域
- ・ 球磨川流域や肥薩おれんじ鉄道沿線での広域的な取組みを推進する地域

### 将来像

新幹線や高速道路など南九州の高速交通網の結節点としての機能や、世界に向けたクルーズ拠点、また物流拠点としての八代港の機能の強化により、八代の拠点性が向上し、県南地域を構成する各地域間の連携も深まり、人的、物的交流が活発化しています。

県内有数の生産量を誇る農林水産物や、地域に息づく歴史・文化、自然環境など特色のある資源を生かした取組みにより経済が活性化してきています。

### 主な取組みの方向性

#### 農林業の更なる振興

農地が大きく広がる地域においては、更なる農地の集約を促進し、水稻(非主食用米含む)や露地野菜の作付けを拡大するとともに、野菜を中心とした施設園芸等では低コスト生産や高品質化を図ります。中山間地域においては、果樹や茶など、それぞれの地域特性に応じた農産物の栽培、高品質化を進め、農業所得の向上を図ります。

また、「八代いぐさ」「塩トマト」「生姜」「晩白柚」「吉野梨」「デコポン」「サラダたまねぎ」「みなまた和紅茶」「球磨焼酎」「やまえ栗」等のブランド維持・確立に向けた取組みを一層強化します。

水俣・芦北地域がこれまで行ってきた環境保全型農業の取組みを更に加速させ、地域全体をエコ農業、エコタウンの拠点としてブランド化を図ります。

山間部においては、林業・木材産業の更なる発展を図るため、計画的な素材生産とともに、人吉・球磨地域の製材工場、水俣・芦北地域にある合板工場、八代地域にある製紙工場などの地理的好条件を生かした木材の加工・流通機能を拡充・強化します。

南九州三県における交通インフラの結節点としての機能を生かすとともに、県内有数の農業生産地という特性に着目し、食品関連産業を中心とした企業、研究施設

等の誘致や地場企業の振興により集積を図ります。

#### 八代港の活用

重要港湾である八代港の港湾施設等の整備を促進するとともに、税関業務や保安体制の充実を図ります。

八代地域はもとより、水俣・芦北地域や人吉・球磨地域において生産される豊富な農産物、木材等のアジアに向けた輸出を拡大します。

また、やつしろ全国花火競技大会、ユネスコ無形文化遺産である八代妙見祭、人吉おくんち祭などの大規模イベントを生かしながら、海外からのクルーズ船の誘致によりアジアからの観光客を呼び込みます。

南九州の国際物流拠点である八代港を活用する企業の誘致を進めます。

#### 広域観光の推進

南九州の交通の結節点としての機能を生かした交流人口の拡大を図るため、八代、水俣・芦北、人吉・球磨地域や、宮崎、鹿児島県を結んだ広域観光ルートの設定など、広域的な観光を展開します。

地域内にある数多くの温泉や、秘境五家荘をはじめ、清流川辺川など豊かな自然環境、更には国宝青井阿蘇神社、日本の20世紀遺産に選定された肥薩線に代表される歴史・文化など豊富な地域資源を生かした取組みを強化します。また、環境学習の拠点づくりとともに、グリーンツーリズムなど自然体験型の観光商品を磨き上げ、多様なニーズに応える魅力ある観光地づくりを推進します。

人吉・球磨地域においては、九州自動車道のICやスマートICを生かし、日本遺産である相良700年の歴史・伝統・文化が培った地域の一体性を踏まえた観光の展開を更に強化します。

#### スポーツによる賑わいづくり

県営八代運動公園や水上スカイヴィレッジをはじめとしたスポーツ施設の活用等により、日本代表レベルの合宿の誘致、2019 女子ハンドボール世界選手権大会や各種競技の全国・九州大会の開催などスポーツを柱とした交流人口の拡大を図ります。

#### 農業における再生可能エネルギーの導入

八代地域において盛んな施設園芸農業におけるハウス加温に対し、人吉・球磨地域の豊富な森林資源を活用した木質ペレット等の利用を促進することで、エネルギーコストの安定化を図ります。

林業生産活動で発生する林地残材や、市場・加工施設において発生した端材等を、木質チップや木質ペレット等の木質バイオマスとして有効利用するため、低コストで安定的な供給体制の構築により森林資源の広域的な活用を進めます。



また、ソーラーや小水力等による農林水産業施設への電力供給などといった農林水産業への再生可能エネルギーの導入を積極的に進め、エネルギーの地産地消をめざします。

#### 「第六次水俣・芦北地域振興計画」の着実な推進等

水俣・芦北地域は、水俣病の発生により疲弊した地域の再生と振興をめざした第六次振興計画を策定しており、産業振興・雇用確保、医療・福祉の充実及び地域イメージの確立のための取組みを推進します。

環境・再生可能エネルギー関連産業等の誘致や地場企業育成の強化を図るとともに、地元の農林水産物を生かしながら地域一体で、第一次産業の振興、6次産業化、加工所等の整備などを進め、雇用創出に力を入れます。

さらには、森林の経営管理を意欲のある担い手に集約する取組みを支援し、林業の振興と森林資源の適切な管理により、森林の公益的機能を持続的に発揮させるとともに、カサゴ種苗の放流等、漁場環境保全及び水産資源回復に取り組みます。

県境連携の強化と併せて肥薩おれんじ鉄道沿線での広域交流、美しい自然環境や特色ある食等を生かした観光振興を促進します。

こうした振興施策の基盤となる南九州西回り自動車道の整備を促進し、水俣・芦北の海岸線を走るシーサイドロードやエコパーク水俣及び水俣港等の整備を推進します。

また、環境関連産業の集積や地域住民の高い環境意識など環境先進地であるという地域の特色を生かし、産学官連携などによる環境関連の最先端技術をはじめとした様々な知見や技術の集積を図ります。

#### 五木村の振興

五木村が取り組むソフト・ハード事業の取組みを支援し、五木村、ひいては県南地域全体の振興につなげていきます。

新

#### 県南フードバレー構想

「県南フードバレー構想」に基づく、食品関連産業を中心とした企業、研究施設等の誘致や地場企業の振興による集積、新たな特産品開発、6次産業化、販路拡大等を図ります。

#### 八代港の人流・物流拠点化の推進

国や世界最大規模の船会社と連携して世界に誇る魅力的なクルーズ拠点を形成するとともに、南九州の国際物流拠点である八代港を活用する企業の誘致を進め、アジアに開くゲートウェイ化を推進します。

**若者の地元定着につながる新たな雇用創出**

IT企業のサテライトオフィス等の立地推進により、魅力ある企業の集積を進め、若者が地元で働きたいと思う仕事づくりを促進します。

## (6) 天草・宇土半島地域

### 位置付け(性格)

- ・ 八代海や東シナ海、有明海といった海に囲まれた美しい景観をはじめ、豊富な水産資源やキリシタン関連の歴史・文化などの資源を有する地域
- ・ 新幹線効果の波及に向け宇土半島から天草へのつながりを生かす地域
- ・ 県境を越え、長崎県や鹿児島県との連携を推進する地域

### 将来像

地域特有の景観、自然、歴史・文化などの地域資源を生かし、宇土半島から天草までが一体となった、更には島原半島や長崎市、鹿児島県の出水地域と連携した広域的な観光が展開され、交流人口が増加しています。

また、農林水産業における企業参入等による6次産業化や、つくり育てる漁業の推進等による水産業の振興、天草オリジナルブランドの発信などにより、経済が活性化しています。

### 主な取組みの方向性

#### 地域の特性を生かした観光の振興

世界文化遺産である三角西港や登録される見通しとなった崎津集落のほか、天草ジオパークなど、地域に点在する世界に通用する地域資源を有機的に結び付け、宇土半島から天草下島まで、更には長崎県や鹿児島県と連携した回遊性の高い観光の振興を図ります。

また、豊富な農水産物を活用した「食」と観光の連携、医療機関等と連携したメディカル・ツーリズムやヘルス・ツーリズム、周囲の海を活用したイルカウォッチングなど、各種産業と観光との連携を推進します。

天草・宇土半島地域の物産館等で、農産物や水産物などそれぞれの特産品の販売を進めるなど、地域が一体となった観光を振興します。

併せて、天草・宇土半島地域へのアクセスの魅力向上を図るため、JR三角線における観光列車「A列車で行こう」や、定期航路「天草宝島ライン」の活用、国道57号、国道266号、国道324号及び国道389号沿線の景観整備、熊本天草幹線道路の整備などの取組みを進めます。

さらには、熊本や福岡、大阪からも短時間でダイレクトに天草へのアクセスが可能となる天草エアラインの利活用も促進します。

#### 6次産業化等による農林水産業の振興

デコポン、天草大王、黒牛、レタスなどの地域特産物については、生産の安定と高品質化、さらにはブランド化を進め、農家所得の向上を図ります。

また、企業参入により耕作放棄地等を活用して、オリーブや緑竹等の栽培を推進するとともに、商品の開発、加工、販売までの体制を確立し、新たな産業の創出を

推進します。

クロマグロやクマモト・オイスターなどの新たな養殖水産物の安定生産を図るとともに、新たな加工品の開発や、天草産の水産物として県内外の消費者に届けることができる流通体制の整備を行います。

多品種にわたる農林水産物を、一年を通じて提供できるという強みを観光と結びつけることで、農林水産業の振興につなげます。

#### 天草オリジナルブランドの育成と発信

天草が自信を持って全国に発信するふるさとブランドである「天草謹製」の取組みを促進するとともに、「天草陶磁器」などの長年地域で培われてきた伝統産業のブランド化も推進することで、伝統工芸産業の振興を図ります。

新

#### 世界文化遺産等を活用した滞在型観光の推進

世界文化遺産等の地域資産の保全・活用、天草長崎航路等の天草と各地をつなぐ海上交通等の活用により長期滞在型観光を推進します。

また、八代港のクルーズ拠点形成を好機と捉え、着地型体験プログラムによるインバウンドの拡大に取り組みます。

#### 地場製品の販路拡大、起業・事業拡大等の支援

地域商社 天草宝島物産公社等の取組みにより、地場製品の販路を拡大します。天草市起業創業・中小企業支援センター（アマビズ）等の取組みにより、起業や既存事業のブランド力強化、観光業の活性化、農業の6次産業化等を支援します。



## 【参考】 県内各地域の「主な取組みの方向性」

### 全地域共通の新たな「主な取組みの方向性」

- 新
  - 防災拠点の強靱化
  - 被災企業、被災農家の復旧・復興
  - 防災体制の強化
  - 復興まちづくり
  - 風評被害の払拭
  - 地震を踏まえた住宅整備
  - 道路のリダンダンシーの確保

### (2) 県北地域

- 県北の玄関口としての玉名地域の機能強化
- 福岡などからの誘客をめざした広域的観光の振興
- 更なる農林水産業所得の向上

新

- 新たなヒトの流れの創出
- 地域資源の磨き上げによる広域的観光の更なる振興

### (3) 阿蘇地域

- 阿蘇の草原の維持・再生等
- 九州観光の拠点化（ハブ化）の推進
- エネルギーの地産地消（スマートビレッジ）のモデルづくり
- 地域特性を生かした農林業の振興

新

- 熊本地震の記録・記憶の継承
- 阿蘇へのアクセスルートの回復
- インバウンド等交流人口の回復・拡大
- 移住・定住の促進等

### (1) 熊本市を中心とした熊本都市圏地域

- これまでの産業集積等を生かした関連企業誘致の促進
- 生活環境の整備等による移住・定住の促進
- 熊本市及びその周辺地域におけるハブ機能の強化
- 官民協働による地下水保全対策の強化
- 県と熊本市との連携強化

新

- 熊本地震の記録・記憶の継承
- 熊本都市圏東部地域のまちづくり
- 国際スポーツ大会の開催を契機とした交流人口の拡大

### (4) 県央東部地域

- 平坦地域を中心とした移住・定住、企業誘致の推進
- 中山間・県境地域における交流人口拡大
- 農林業の高付加価値化等

新

- 中山間・県境地域における移住・定住の拡大

### (5) 県南地域

- 農林業の更なる振興
- 八代港の活用
- 広域観光の推進
- スポーツによる賑わいづくり
- 農業における再生可能エネルギーの導入
- 「第六次水保・芦北地域振興計画」の着実な推進等
- 五木村の振興

新

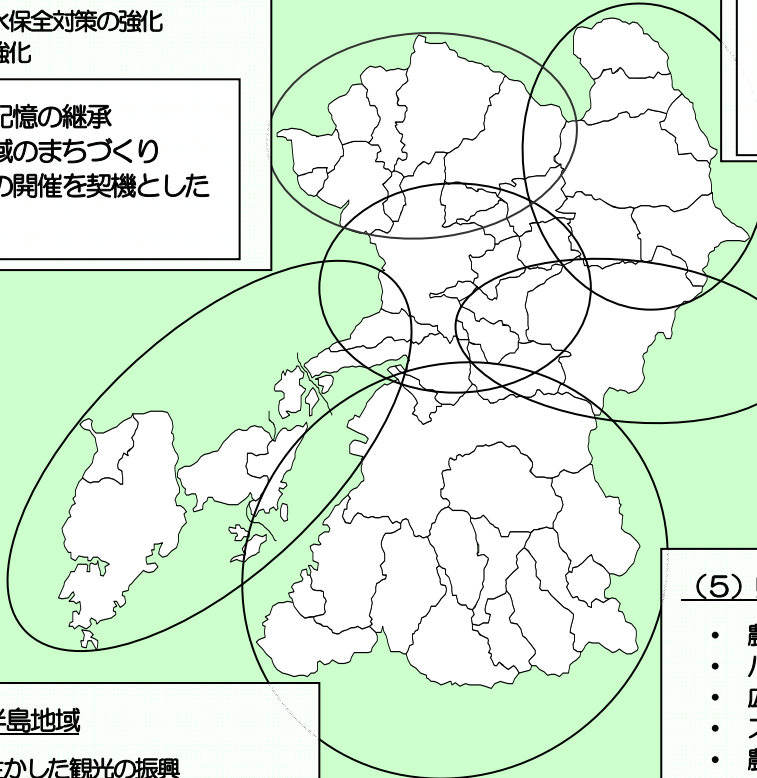
- 県南フードバレー構想
- 八代港の人流・物流拠点化の推進
- 若者の地元定着につながる新たな雇用創出

### (6) 天草・宇土半島地域

- 地域の特性を生かした観光の振興
- 6次産業化等による農林水産業の振興
- 天草オリジナルブランドの育成と発信

新

- 世界文化遺産等を活用した滞在型観光の推進
- 地場産品の販路拡大、起業・事業拡大等の支援



※この他、県境地域においては、九州各県との連携による地域活性化の取組みも展開